

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校外国語科～

第5学年単元名 欲しいものを伝え合おう(第7/7時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

言語活動

友達に欲しいものを尋ねる言語活動があれば、今日のねらいは達成できるぞ。



今日は「カード集めゲーム」をしましょう。じゃんけんで負けた人は、**What do you want?**と尋ね、勝った人は、**I want ~.**でカードを一枚もらいましょう。たくさん集められるのは誰でしょう。

【児童のやり取り】

(負け) **What ... do you ... want, Hanako?**



Taro

(勝ち) **I want a dog.**



Hanako

言い方がよく分からないけど、じゃんけんに勝って、たくさんカードをもらえばいいのかな？



教師が英語表現を示すことで、児童は発話しやすくなるかもしれませんが、しかし、児童が「どのように言えば伝わるのだろう」と考える場面が少なくなってしまう。また、カードを集めることが目的になっているので、英語でのやり取りに意欲的に取り組めない児童も出てしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

目的や場面、状況を意識して、「必然性」のある言語活動を設定しましょう。

小学校における外国語科では、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して育成することが重要です。

言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」のことです。教師が言語活動を設定する際に、「必然性」を意識することが大切です。話すことの活動ならば、「だれ」に話すのか(相手意識)、「なぜ、どのような場面や状況」で話すのか(目的意識)、などを考えて設定しましょう。そうすることで、児童のコミュニケーションをとることに対する意欲が高まり、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることができます。

また、言いたいけれど言えなかった言葉や表現は、記録させたり、既習表現で考えさせたりする時間を設定するなど、児童が自分の考えを整理して形成することができるような学習活動を設定することも大切です。

授業を こう変える！

- ・やり取りをする目的を明確にして場面や状況を設定し、コミュニケーションの必然性を生み出すことで、児童のやり取りへの意欲を高めて、自分が本当に言いたいことや聞きたいことを話せるようにする。…①
- ・言いたいけれど言えなかった言葉や表現を、やり取りの途中で友達から学んだり表現等を確認して考えを整理したりする時間を確保することで、本当に言いたいことを加えて、内容を深められるようにする。…②

このような授業にしていきましょう！

【コミュニケーションの必然性を生み出す言語活動の設定】…1

今日は今までに学習した表現を使って、友達の欲しい物を探ね合う言語活動を設定しよう。



欲しい物を探ねたくなるときは、どんな場面だろう…。
そうだ！誕生日に欲しい物を探ね合って、「欲しい物ランキング」をつくろう。

導入の場面で



Hello, everyone. It is July 1st. My birthday is July 5th. I want a new bike.
What do you want for your birthday?

野球のグローブ！



I want a dog!



児童のやり取りの場面で



Hi, Taro. What birthday present do you want?

I want グローブ. I like …baseball.

You like baseball. Me too.

What … birthday present … do you want?



やり取りの途中で

【言えなかった表現等を確認する場面や時間の確保】…2



英語で言いたかったけれど、言えなかった表現（言葉）はありましたか？

野球のグローブは、英語でも「グローブ」という発音ですか？



グローブという発音は、英語では「地球儀（globe）」のことです。



野球のグローブって、発音はグラブ（glove）じゃなかったかな。

なんか聞いたことある。それじゃあ、
I want a glove（グラブ）。でいいんだね。



That's right! それでは、言えるようになった表現（言葉）を使って、やり取りを続けましょう！

〈児童の姿〉
自分が言いたかったけれど言えなかった表現だからこそ、一生懸命考え、友達のアドバイスや既習表現からどのように表現するか考えています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

スモールトークの途中で



友達が使っていた表現で、使ってみたいと思った表現はありますか？



はなさんは、You like ～. とか Me too. を使っていました。ほくも使いたいです。

私は、今までに習った That's nice! とか Really? も使ってみたいです。



そうですね。習った表現を使っていくことは素晴らしいですね。皆さんも付け加えて言ってみましょう。

〈児童の姿〉
活動で使った様々な表現を子どもから表出させることで、相手が使用した表現を再確認することができます。また、「自分も使ってみよう」と意識し、考えを再構築します。